



平成 15 年 8 月 5 日

港区長
原田敬美 様

社団法人 日本建築家協会 (J I A)
関東甲信越支部 支部長 松原忠策
保存問題委員会委員長 小西敏正

国際文化会館の建築ならびに庭園の保存についての要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

区長におかれましては、都市・街並み・建築に対する深い造詣・理解のもとに行政を導かれていることに、深く敬意を表します。

私ども日本建築家協会では、建築をはじめ造園や街路施設等 それぞれの意匠や空間が 都市文化を実体的に形成するという重要な役割を担っていると自覚し、さらに、個々の建築物が永く使い続けられ活用されることによってはじめて、その都市文化に歴史的な奥行きがもたらされ、醸成がなされると考えております。

さて、貴区内にあります国際文化会館の旧館部分は、ご高承のとおり 日本の現代建築史上の最も高名な巨匠のうち3人もの協働設計によるものであり、その意味で前例も後例も無く、またモダニズムの建築空間を由緒ある日本庭園と巧みに調和させるというデザインの妙を実現した、貴重な建築作品であり、日本建築学会賞受賞作ともなっています。

また、その周辺は緑の多い、都心あって希に見る環境の良い地域で、江戸時代から受け継がれた歴史の匂いも残っており、貴区として ぜひ大切にしていきたい佇まいを湛えています。

このたび、所有者である(財)国際文化会館が、諸般の事情から、周辺の地権者と共に再開発計画を考慮中であるということを知り、この貴重な作品や由緒ある庭園が無くなる可能性のあることを知り、当委員会では何とかこれらの現地保存ができないものか、またいかにしたらこの地域の佇まいを保全できるか、議論を重ねてまいりました。

前川國男・坂倉準三・吉村順三、この3名の建築家が、当協会の前身(旧 日本建築家協会)発足期の精神的中核に居たこと、また、戦後の困難な時代にアーキテクトの社会的地位を確立せんと奮闘したことに想いを馳せれば、これら先達の残した「個性の融和協調」の実験例を後世に残し伝えることは、財団としての国際文化会館の理念に合致するのみならず、これらを擁する地域全体の文化施策としても国際的な評価を得るであろうと確信いたします。

すなわち、日本が世界に誇りうる建築家3名の協働作品と美しい庭園とを有機的な一体として現地保存・活用されるべく 貴区が主導的な役割を果たして頂くことが、建築やその周辺芸術が持つべき文化的価値を世代を超えて紹介し、あるいは広く世界に日本の近現代建築史の一断面を伝える、もっとも有効な手段と考えられるのです。

わが国の人口の減少を将来に控えて「スクラップアンドビルド」がもはや物理的にも時代の要請にそぐわなくなりつつある今日、国際文化会館の建物と庭園を現地保存する技術的可能性は、十分残されていると思料し、ここに表記の要望を重ねてお願いする次第です。

また同時に、国際文化会館を保存する事で、かえって地域内に周囲の環境を阻害するほどの超高層化や大規模化した建物が建てられることに至らないよう、関係各方面をご指導頂けるよう、これについてもよろしくお願い申し上げます。

私どもと致しましてもこれらのため、可能な限りの協力・提案をさせて頂きたく、お声をお掛け下されば幸いに存じます。

敬具